

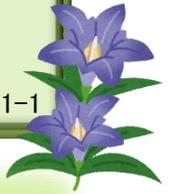
同窓会会報

高知県立大学看護学部

第27号

令和5年10月26日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



ごあいさつ

同窓会会長 中山 洋子



“線状降水帯”と“猛暑”という言葉が飛び交った今年の夏、暑い日がいつまで続くのだろうかと思っていましたら、10月に入り、一気に秋が訪れました。まだ、日中の気温は高い日があるのですが、夜は冷え込み、紅葉の季節を迎えました。同窓会の皆様、令和5年度同窓会総会の書面開催にご協力いただき、ありがとうございました。令和5年度の活動計画案と予算案、同窓会役員につきましては、すべて承認されました。令和6年度の総会は、対面で行うことができるように準備をすすめていきますので、どうぞよろしくお願いたします。

第49回高知女子大学看護学会は、7月22日(土)に「看護におけるイノベーションの創出」をテーマに対面とオンラインを併用した形式で開催されました。私も4年ぶりに高知に出向き参加いたしました。福井小紀子先生(東京医科歯科大学)の講演「社会のニーズに応える看護イノベーションの挑戦」は、ビッグデータの解析をエビデンスとして最適なケアを提供していくという内容で、2025年問題の当事者である私にとってはとても刺激的なお話でした。午後は、6つのワークショップが開催され、オンラインでの参加者を交えて活発な議論が行われました。また、夜には、本年3月末で高知県立大学学長を退任されました野嶋佐由美先生に感謝する会が行われました。野嶋先生のたくさんのエピソードが参加者から語られ、心温まるひとときを持つことができました。同窓会からも感謝を込めて花束をお渡ししました。野嶋先生は、40年余りも本学の教育を担ってききましたので、同窓会の皆様の多くが接点を持たれていると思います。

母校に行けば、恩師がそこにいるという思いは、貴重なものです。ここ数年は、長年、本学の看護学教育を担ってこられた先生方の定年退職が続くと聞いています。寂しさはあるのですが、それだけ次の世代が育っていくことだと思います。「教育は、自分を超越する人材を育てることができた時、成功したと言える」という私の高知女子大学での恩師の言葉を大事に、次の世代が大きく羽ばたいていくことに夢を託したいと思います。

この秋は物価の高騰、円安、福島原発処理水の海洋放出、ジャニーズの性加害、統一教会の解散命令等々、日本が抱えている問題を考えると、気が重くなることばかりです。世界を見れば、ロシア-ウクライナ戦争に加えて、トルコ-シリア地震やモロッコ地震、リビア洪水といった大規模な災害が発生し、そして、イスラエル-ガザ戦争が勃発するという、ニュースを見るたびに心が痛みます。この暗澹たる時代に私たちはどのような光を見出して歩み続けていくのか、こんな時代だからこそ、ひとり一人が自らのwell-beingを大切に、自分の道を切り拓いていくことが求められているのではないのでしょうか。同窓会の皆様とのお会いできる機会を楽しみにしています。

主な内容

- ①同窓会会長ごあいさつ
- ②令和5年度同窓会総会報告
- ③看護学部は今
- ④野嶋佐由美先生ごあいさつ
- ⑤野嶋佐由美先生へのメッセージ
- ⑥活躍する卒業生
- ⑦第49回高知女子大学看護学会報告
- ⑧看護開発研究会



令和5年度 同窓会総会報告

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止と会員皆様の健康と安全面への配慮から、令和5年度の同窓会総会の対面での開催を中止し、文書(議決書)送付による総会とし、議案賛否のお返事をいただく形としました。その結果のご報告を致します。下記の3点の審議事項につきまして、賛成多数にて、承認いただきました。審議などへのご協力、誠にありがとうございました。

議事次第

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1) 報告事項 | 2) 審議事項 |
| (1) 令和4年度活動報告 | (1) 令和5年度活動計画案 |
| (2) 令和4年度決算報告 | (2) 令和5年度予算案 |
| (3) 令和4年度会計監査報告 | (3) 令和5年度同窓会役員について |

令和5年度活動計画

1. 会議
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催(高知女子大学看護学会と共催)
 - 2) 会報発行
 - 3) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 4) 学生及び同窓生活動への支援
 - 5) 給付型特別奨学金の給付
 - 6) 緊急奨学金貸与
 - 7) ネットワーク強化

令和4年度活動報告

1. 会議
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催(高知女子大学看護学会との共催)
テーマ:看護におけるイノベーションの創出
 - 2) 懇親会 開催中止
 - 3) 会報発行
 - 4) 学生支援、同窓生活動支援
 - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 6) 給付型特別奨学金

*1:看護学部長
*2:看護学会名簿管理係兼

同窓会役員名簿(令和5年度)

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	中山洋子	16期生	文京学院大学看護学研究所
副会長	藤田佐和* ¹	28期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美	27期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美	34期生	
	矢野智恵	38期生・修士1期生・博士17期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25期生・修士5期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	川本美香* ²	修士13期生・博士18期生	高知県立大学看護学部

令和4年度 会計報告

令和4年度 高知県立大学看護学部同窓会決算報告
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部	費目	予算額	決算額	差引	備考
	前年度繰り越し	13,480,522	13,480,522	0	
	令和4年度終身会費	1,500,000	1,305,000	△195,000	令和5年度卒業生のうち79名(95.1%) 前年度大学院生(前期10名)のうち7名納入(70.0%) 前年度まで未納等の学部生・大学院生:2名
	寄付金	200,000	105,000	△95,000	延べ15名
	奨学金返済	0	0	0	
	利息	65	67	2	
	合計	15,180,587	14,890,589	△289,998	

支出の部	費目	予算額	決算額	差引	備考
事業費	会議費	30,000	0	30,000	役員会等
	同窓会会報発行費	440,000	440,000	0	会報発行2回
	高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会・懇親会運営費	0	0	0	令和4年度同窓会総会・懇親会運営方法の変更
	学生および同窓生活動支援費(1件20万円以内)	600,000	352,150	247,850	①第24回日本災害看護学会抄録集広告:¥66,000 ②第24回日本母性看護学会抄録集広告:¥22,000 ③第28回日本家庭看護学会広告:¥30,500 ④看護開発研究会シンポジウム講師謝金:¥30,000 ⑤4回卒業生記念品:¥195,650
	緊急奨学金費	535,800	0	535,800	
	給付型特別奨学金費	3,000,000	0	3,000,000	令和4年度のみ予算1件あたり10万円
	小計	4,905,800	1,092,150	3,813,650	
	役員費	400,000	409,519	△9,519	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費等
	印刷費	200,000	49,720	150,280	封筒印刷
事務費	消耗品費	1,100,000	7,434	1,092,566	事務用品、A4用紙、宛名シール等
	報償費	200,000	71,000	129,000	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
	小計	1,900,000	537,673	1,362,327	
	予備費	8,374,787	0	8,374,787	
	合計	15,180,587	1,629,823	13,550,764	

令和5年度への繰り越し金=収入の決算額14,890,589円 - 支出の決算額1,629,823円 = 13,260,766円

監査報告書
高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

監査結果 証拠書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和5年5月8日

会計監査

野田 真由美
大野 智恵



令和4年度 予算案

令和5年度 高知県立大学看護学部同窓会予算案
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入の部	費目	予算額	備考
	前年度繰り越し	13,260,766	令和4年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
	令和5年度会費	1,500,000	15,000円×100名=1,500,000円 学部生:80名 大学院生:20名(博士前期課程17名、博士後期課程3名)
	寄付金	200,000	1口1,000円×200口
	奨学金返済	0	
	利息	65	
	収入合計	14,960,831	

支出の部	費目	予算額	備考
事業費	会議費	30,000	役員会等
	同窓会会報発行費	440,000	会報発行2回
	高知女子大学看護学会支援費	300,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会・懇親会運営費	0	会場費、運営費等
	学生および同窓生活動支援費	600,000	1件あたり上限20万円
	緊急奨学金費	535,800	1年間1人の学費として
	給付型特別奨学金費	1,000,000	1件あたり10万円(R2.3.4年度予算¥3,000,000) R2年度:5名、R3年度:3名、R4年度:0名
	役員費	1,150,000	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費 同窓会名簿管理システム構築(¥650,000)等
	印刷費	200,000	封筒印刷等
	事務費	消耗品費	100,000
	報償費	200,000	書類発送に関するアルバイト料等
	予備費	10,405,031	
	支出合計	14,960,831	

看護学部は今

「看護実践への誘い」

令和5年8月8日(火)午前9時より、2回生対象の「看護実践への誘い」が開催されました。この会は、初めて病院で実習を行う学生さんにその心構えなどを意識していただくこと、そして、学生さんの実践への第一歩をお祝いし、送り出すという目的があります。そのため、会は式典の形で執り行い、学生さんにはフォーマルな服装で出席をいただいています。

ですが、当日の朝は集中豪雨。学生さんの中には水浸しのスーツをタオルで拭きながらの出席となりました。

初めに、学部長 藤田佐和先生より初めて看護実践に踏み出す看護学生の心構えについての話があり、続いて、小澤若菜先生、久保田聡美先生よりエールの言葉をいただきました。

そのような門出にあたり、2回生代表の学生は「これから始まる実習が、この先看護職を目指すにあたっての基盤・原動力になるよう、また一つでも多くの経験を持ち帰り、自分達の成長の糧となるよう、誠心誠意取り組みたいと思います。」と意思を表明しました。その様子に、学年担当として、春には「今年は実習に行けるように、単位取得を頑張ります」と話していた学生さんたちが、様々な授業や演習を行い、いよいよ実習に取り組むことができる状態に到達したことを嬉しく思いました。その後、高知医療センターとの包括連携事業として感染管理認定看護師さんから、臨床現場における感染対策についての講義をいただき、実習および各医療機関からのオリエンテーションが行われました。学生さんたちは期待と不安を抱えつつも、実習への第一歩を踏み出すことができました。9月終わりには全員が実習を終えることができ、「なんとか、実習頑張れました」と、笑顔で話してくれた学生さんの表情は、まるで雨上がりの青空のように晴れやかで、一つ一つ乗り越え、成長していく様子が頼もしくもありました。

2回生学年担当 高谷恭子 山中福子 中井有里



ごあいさつ

前学長、20期生 野嶋佐由美

同窓会の皆様、長きにわたり、ご支援ありがとうございました。7月末の「感謝の会」では、同窓会の皆様、学部・大学院の“教え子”の皆様から暖かいお言葉をいただきました。ありがとうございました。

私は、高知女子大学家政学部衛生看護学科の卒業生であり、その後高知女子大学家政学部・看護学部、高知県立大学看護学部の教員として39年、この間、看護学部長、副学長、学長を務めさせていただきました。

学部の先生方とともに、看護学部独立、大学院看護学研究科修士課程新設、健康生活科学研究科博士後期課程(看護学専攻)新設、看護学研究科看護学専攻前期課程・後期課程・博士課程への発展的移行を成し遂げてきました。高知女子大学から高知県立大学へと法人統合、共学化による大学名称変更、永国寺キャンパスから池キャンパスへの移転もありました。その一つひとつのプロセスには、看護学科内部で協力体制を整え、戦略を練り、大学全体との交渉・提案、高知県の関連機関との協議、予算の獲得、文科省との交渉などがありました。看護学科の教員が共通の目標を掲げ、一丸となって進めてきた歴史でもあります。当時、永国寺キャンパスの南舎の演習室で、幾晩も尾木食堂から「なべ焼きうどん」などを配達してもらいながら、みんなで知恵を絞り、手分して学部独立・看護学研究科設置の資料を作成したことが懐かしく思い出されます。池キャンパスの看護学部棟の設計や実習室・研究室も自分たちで作成し提案するなど、手作り感のある移転でした。

池キャンパス拡充・看護学部拡充により、学生数が80人へと増加、助産看護教育も開始しました。臨地での看護学実習の編成について、県内の実習病院の看護部や地域の看護関係の方々、看護系の学校の先生方に厳しい実習スケジュールを少しずつ譲っていただき、看護学部の実習計画を文科省に提出することができました。この過程では、同窓生の皆様からの、暖かいお声がけをいただくとともに、多大なご支援を得て実現したことを感謝いたしております。

女子大は、和井先生の時代から「実践」を重視してきました。この伝統を受けて、大学院教育も実践を重視し、専門看護師の育成にいち早く着手し、8領域での育成が可能となっています。実践を大切にして臨地で頑張っている卒業生、修了生の皆様に、私は同窓生として感謝と敬意をもってします。

大学院では、実践の場に着目し、実践の場を改革する実践研究を奨励しています。私も、実践の現象を説明できる概念に焦点を当て、研究に臨むようにと学生に強く言い続けました。大学院修了の同窓生は覚えているかな、苦笑しているかなと、懐かしく思い出されます。

同窓生とのつながりの強化、学生への支援の強化が必要であるとの思いで、同窓会の立ち上げを試みましたが、諸々の事情で数回の断念の経緯を経ましたが、やっと2009年、看護学部の教員・同窓生の協力を得て、高知女子大学看護学部同窓会を立ち上げることができました。1976年に発足した高知女子大学看護学会は、当初より同窓会としての機能も兼ねて運営されてきましたが、機能分化したことにより、看護学部は学会と同窓会という二つの組織を有機的に関連させていくことでシナジー効果を生むことができています。学会は大学院生への奨学金制度の充実を、同窓会は学生及び卒業生・修了生への活動支援、緊急奨学金支援、新型コロナウイルス感染症への対策として給付型特別奨学金など、学生への迅速な支援を行っています。大学の法人化・共学による大学名称変更により、2012年からは高知県立大学看護学部同窓会となりました。大学院部会の活動として、2015年度より毎年、高知女子大学看護学会の翌日に学術的な学びとネットワークづくりの交流会、『看護開発研究会』を開催しています。私は、皆様にこれらの機会にお会いできることを楽しみにしています。

今後、私は同窓生として、高知県立大学看護学部・看護学研究科のさらなる発展をこころから応援し願っています。科学技術、AI、DX等々の躍進的な進歩ばかりでなく、看護をめぐる価値観が変革の波にさらされています。看護学部・看護学研究科の同窓生の皆様は、それぞれの場で、伝統のなかに、新たな考え方、価値観を取り込み、大胆に変革していった下を期待しています。片手に伝統を、片手に破壊的イノベーションを持ちながら、新たな伝統を開拓していかれることを期待しています。どうぞ、新たな地平へと！



野嶋佐由美先生へのメッセージ



2017年から6年間、第2代高知県立大学学長を務められた野嶋佐由美先生が、2023年3月に退任されました。野嶋先生は、卒業生であり、教員として長年、高知女子大学から長きにわたり、看護学部の教育、研究にご尽力いただきました。また、同窓会においては、同窓会設立当初から副会長として同窓会の運営に貢献していただきました。

2023年7月22日(土)に野嶋先生のこれまでのご指導ご功績に感謝する会が企画され、来賓の方や卒業生、修了生など、134名の出席のもと、開催されました。参加された同窓生の方からの野嶋先生へのメッセージと写真をお届けします。

宮井 千恵さん 前公益社団法人高知県看護協会会長



野嶋先生、このたびは学長の任期を終えられ誠におめでとございます。そして、大変、お疲れさまでした。また、「野嶋先生に感謝する会」にも出席させていただきありがとうございます。野嶋先生との最初の出会いは、先生がアメリカ留学から帰国された翌年かと思いますが、大学病院看護部で講演をして下さったときであったと思います。その時のことが深く私の心に残ったのを覚えています。

あれから現在まで30年余りにわたり、私の医学部附属病院在職中には看護研究や学生実習等で親しくしていただき、高知県看護協会では、長年、役員や委員等として看護協会の運営へのご尽力を賜り、特に私の会長就任中には、さまざまな局面で強力なサポートをいただき、心から感謝申し上げます。

先生は、長年、日本の看護教育をリードされ、また学長という重責にあるときも、笑顔と冷静な判断で大学の発展に貢献されました。まさに天命を全うされたと思います。先生の偉大さには足もとにもおよびませんが、昔も今も、そしてこれからも私のあこがれの存在です！どうぞ、これからは、少しはご自分のための時間をエンジョイされますようお願いさせていただきます。本当にありがとうございました。

中西 純子さん 大学院健康生活科学研究科博士後期課程1期生／愛媛県立医療技術大学学部長

野嶋佐由美先生への感謝の言葉



多くの卒業生・修了生がいらっしゃるなか、代表して野嶋佐由美先生に感謝の言葉を述べさせていただきますことを大変光栄に存じます。私は学部、大学院修士課程は他大学ですが、高知女子大学健康生活科学研究科博士後期課程の1期生として学ばせていただきました。2001年の博士課程の開設にあたっては、大変なご苦勞があったことを、この度、野嶋先生から伺い、改めて、1期生として学ばせていただいたことの重みを実感しているところです。

実は、私たち1期生は、2001年3月、入学試験最中に芸予地震に見舞われ、博士後期課程のスタートはこの地震とともに強く記憶に刻まれています。

地震との遭遇からスタートした博士後期課程の創設期の緊張感とワクワク感を、看護学領域同期の3人並びに先生方とともに経験できましたことはよい思い出とともに、現在の仕事にもつながる財産となっています。

野嶋先生はいつも広い視野で先を見通しておられ、また、事を動かす強い推進力には敬服するばかりで、私も折に触れ背中を押していただきました。今後、役職は離れられましても、私たち卒業生・修了生の誇りであり、精神的支柱であることに変わりはなく、今後ともご指導・ご鞭撻いただけますことを願っております。ともあれ、ひとまずは、長らく担われた重責から解放され、お疲れをとっていただけたらと存じます。本当に、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



武田 明子さん(20期生)

「野嶋佐由美先生に感謝する会」に参加させていただき、とても幸せなひとときでした。本当になごやかな、ほっこりする会で心温まりました。来賓挨拶、会場で流されたビデオメッセージ、テーブルスピーチをされた方々のお言葉から、皆さんに尊敬され、人間性豊かで誠実な野嶋さんの姿に触れ、感動しました。

私には、想像すらできない学長という要職を見事にさらりとこなされた野嶋さんに同級生として、とても誇りに思っています。

これからの野嶋さんには、少し歩みをゆるめて四季の移ろいに心寄せ、穏やかな時間をたくさん過ごしてほしいなと思っています。

山崎 マリさん(20期生)

野嶋佐由美学長退任に寄せて

高知女子大学は、男女共学となり、学校名も高知県立大学となりました。南裕子学長の後、二代目の学長として、六年間の重責を終えられておめでとうございます。そして、お疲れ様でした。就任後に図書館問題が持ち上がり心配しながら、報道を見ていましたが、どんなにか大変な思いをされているかと陰ながら心配をしておりました。批判のある一方、大切な書籍の中には「類書や新装版、改訂版がある」「電子化やデータベース化されている」ことを理由に、大学側への理解を示す声も上がっていました。との情報を見て胸を撫でおろしました。このようなことが起こった中で、大学の統治を見事に達成されて学長の任務を果たされたことに畏敬の念を禁じえません。そして、高知県立大学名誉教授になられておめでとうございます。

同級生が高知で集まったこともありましたが、学長就任後はなかなかお忙しくてお会い出来なかったですね。同級生の方も年を重ねて様々な状況となり、今回は心ならずも同級生は二人の参加となりました。涼しくなったらご慰労もかねて集まりたいと思っています。

学長のガウンを脱いだ佐由美さん
心おきなく自由であれよ

関根 光枝さん (修士10期生)

野嶋先生

ご退官、おめでとうございます。長きにわたり看護界の発展のためにご尽力頂きまして、誠にありがとうございました。

先生に初めてお会いしたのは、広島での日本家族看護学会学術集会懇親会会場でした。雑誌「家族看護」に掲載された先生の顔写真を頼りに、会場入り口付近で来場される方々のお顔を怪しまれないように確認し、ドキドキしながら先生に声をかけさせて頂いたことを思い出します。大学院受験の相談をさせて頂き、その後無事入学でき、先生の元で学ぶ中で、「生活」を忘れてはいけないなど要所所で家族看護の重要な視点を示して頂きました。また、先生が開発された「家族看護エンパワーメントモデル」に示されている、家族の立場にたって考え、家族の力を信じ、家族のニーズに基づいて家族とともに協働しながら支援していくことは、まさに看護の原点に立ち返ることでありました。修士論文の中間発表後、分析を一からやり直すという試練も経験しましたが、先生からとても貴重な教訓を沢山頂きました。修了後もいつも気にかけてくださり、本当に感謝しております。家族支援専門看護師として、先生から得た学びを広く伝えていきたいと思っています。



たくさんの同窓生、教え子が野嶋先生を囲み、笑顔であふれました



大学院家族看護学領域で



同窓会役員と一緒に



33期生の教え子たちと



在学生と一緒に



35期生の教え子たちと



修士1期生と一緒に

活躍する卒業生

災害や救急現場で「寄り添う」ということ ～未来への挑戦～

野島真美さん（共同災害看護学専攻博士課程修了） 岡山西大寺病院看護部 外来・救急外来

令和2年3月に共同災害看護学専攻(DNGL)を修了し、気が付けば3年半が経過していました。大学院修了を目前に控えた2020年は、国際的に脅威となった新型コロナウイルス感染症に社会は大混乱し、人々の健康や生活にも大きな影響を与えていました。不要不急の外出を控え対面での行事は中止となるなか、先生方のご協力のもと、感染対策を行ったうえで修了式を開いていただいたことには大変感謝しております。

在学中より研究成果を臨床で活かしたという思いが強った私は、先生方の思いに背を向けるように臨床に戻り4年目を迎えようとしています。実際、臨床現場に戻ると感染症対策や新型コロナウイルス感染症に罹患した患者様の対応に追われる日々で、大学院で学んできたことを臨床での看護に活かすことができず悩んだこともありました。しかし、現在では、大変な日々を経験したからこそ、次の新たな目標が見えてきました。また、大変な時期を過ごす時には、在学中に先生方からご指導いただいたことを思い出し乗り越えてきました。特に、野嶋先生から在学中にいただいた、「目の前のことを粛々と行うことで必ず道は開ける」という言葉は、大きな支えとなりました。

また、修了後は継続して減災教育に携わり、2023年に発災したトルコ・シリア地震では国際緊急援助隊(JDR)の医療チームの一員として活動を行ってきました。現地では避難生活が長期化していることによるストレスを抱えた方、震災後の片付けによる健康被害に遭われた方、また、かかりつけの病院が被災し、いわゆる医療難民に陥った方と接する機会があり、被災した方々に寄り添うことの大切さと難しさを改めて感じ、南先生から教わった「人々に寄り添うこと」の真意を改めて考える機会になりました。さらに、国際救援ということで文化や宗教・価値観の違いを尊重し、他国のチームとして受け入れてもらいながら活動を展開していくことの難しさも再認識し、今後もこの経験を大切に災害看護のあり方について考えていきたいと思えます。

最後に、同級生、ハストロ・ドゥイナントアジについて話させてくださいと思います。彼はとても賢く素敵な人物で、人の幸せを自分のことのように喜び、悲しみはともに向き合ってくれました。彼に支えられた人は多く、彼がいたことで私たち2期生も人間として成長できたと思えます。そして、いつまでもこの関係が続くと思っていました。本来であれば、こちらの記事も活躍する卒業生として彼が執筆するはずだったのではないかと思います。そう考えると悔しく、今でも突然の別れを受け入れることができませんが、いつまでも立ち止まったまましていると彼に怒られそうな気がするので、彼との思い出を大切に新たな夢や目標に向かって前進していきたいと思えます。大学院で過ごした5年間は人生の宝で、最高の友に出会うことができましたことに感謝いたします。



写真提供: JICA

看護の基盤を学んだ場所 大崎杏奈さん（修士19期生） 高知赤十字病院



私はH20年に高知女子大学看護学部を卒業し、H30年に高知県立大学大学院看護学研究科を修了後、R2年に急性・重症患者看護専門看護師の資格を取得しました。現在は高知赤十字病院救命救急センター一病棟に勤務しています。幼い頃から看護師になる夢をもち、高知県立東高校の衛生看護科に入学し、最短で看護師の資格を取得するつもりでしたが、看護を学べば学ぶほどに4年制大学で、じっくり看護を学びたいと思うようになり、当時は40人1クラスであった高知女子大学看護学部に入りました。大学では半数が県外出身者であり、たくさんの友人に刺激を受けながら楽しく大学生活を送ったことを覚えています。大学卒業後、看護師として重症混合病棟で勤務していた私は、めまぐるしい日々の中で、看護の楽しさをだんだん見いだせなくなっていました。不全感ばかりが大きくなる中で、“一度立ち止まりたい”と思うようになりました。大学の先生に相談し、大学院進学、専門看護師資格の取得を目指すという目標ができました。大学院の2年間は、楽しかった大学生活とは打って変わって、自分自身と向き合いフレクションを繰り返す、とても苦しい日々でした。しかし、大学時代の同級生の多くが大学院に戻ってきていることを知っていた私は、その事実をどこかで頼もしく、心強く感じており、無事大学院を修了することができました。大学院時代の友人は、今でも良き理解者として支えてくれています。急性・重症患者看護専門看護師となった今、シビリアン現場で心身共に疲弊することもあります。高校から大学院までの9年間の学びの日々が、自身の看護の基盤となり看護師人生の拠り所となっています。看護とは何か、ケアリングとは何か、私の中にずっと存在し続ける看護への問いが、私の原動力となり、前進できていると感じています。仲間との出逢いに感謝しています。

第49回 高知女子大学 看護学会報告

令和5年7月22日(土)10時～16時、「看護におけるイノベーションの創出」をメインテーマに第49回高知女子大学看護学会を開催しました。社会の課題やニーズに応える看護のイノベーションについて考える場として、講演と6つのワークショップを企画しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ3年間は学会の中止またはオンライン開催を余儀なくされてきましたが、今年度は対面とオンラインのハイブリッド開催とし、九州から東北地方まで125名の方々にご参加いただきました。学術的な学びの場であると同時に、3年ぶりに同窓生が集まることができる機会ということもあり、会場のあちこちで参加者同士が再会を喜んだり、近況を報告し合ったりする姿が見られ、活気ある学会となりました。

開会の辞では、高知女子大学看護学会 野嶋佐由美学会長より、近年、私たちの生活や保健医療の場では、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進や、人工知能(AI)の発達、常識を一変させるような新しい価値や考え方の創造などにより、研究開発のあり方は大きく変容し、10年前には想像の域を出なかったことが現実化していること、科学技術が進み、科学が新たなフェーズに入ったこの時代に、看護学がいかんして社会に貢献していくかがますます問われる時代となっていることが示されました。技術革新が進む社会へと発展している中で、社会のニーズに応える看護のイノベーションとはどのようなものか、そして、イノベーションをいかんして創出していくかを参加者の皆様と考える機会となればと挨拶されました。



午前中は、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 教授の福井小紀子先生を講師にお迎えして、「社会のニーズに応える看護イノベーションの挑戦」というテーマでご講演いただきました。

まず、近年の社会課題の変化とそれを受けた医療・看護を含むヘルスケアの動向について、政策的な対応も含めてご説明いただきました。そして、このような動向を受けて、看護として社会的に寄与できるイノベーション創出に挑戦するという意思を持って取り組んでおられる企業とのコラボレーションによる産学連携研究、国の政策方針も踏まえ、ビッグデータを活用してエビデンス創出に挑んでおられる産官学連携研究の

実際をご紹介いただきました。

産学連携研究では、企業と協働してテクノロジー機器を用いて対象者の生体データや環境データを連続的に計測し、その情報を解析して療養者の早期問題予測ツール開発につなげておられ、対象者の身体状態や生活を知る看護師の観察や判断の重要性、企業や医療現場との連携における目的意識の保持の必要性などが示されました。産官学連携研究では、人口減少が進み、財源が限られるという社会背景から、ITを含む科学技術の活用を医療・看護・介護領域で推進するという国の政策方針を受けて、レセプトデータのAI解析を行い、その結果をエビデンスとした患者特異性の最適ケアパッケージの提案・開発に取り組んでおられ、多岐にわたる研究成果の一部をご紹介くださいました。これらを通して、今後の看護のイノベーションを推進していく上で不可欠な視点として、時代のニーズに合わせて、最適なタイミングに、求められるエビデンスを示し、看護実践の発展と看護の質向上に看護界を挙げて戦略を立てて取り組んでいく必要性、そのために看護研究者と実践家と政策立案者が手を取り合って看護を実証化していくことや、異分野・異業種とコラボレーションして看護・ケアの価値を提示し社会実装していくことの重要性などをお示しくださいました。

ご参加のみならずお寄せいただいたアンケートの結果からは、「DXの技術と看護との融合の考え方や捉え方を聞くことができた。」「ビッグデータの解析を産官学連携で進めていく方策について学ぶことができた。」「DX、ビッグデータと自分の臨床をコラボして、ケアの質向上に努めたい。」など、DXを活用して看護が社会にどのように貢献していくかの考え方、方策を、実践、研究、教育など参加者それぞれの立場で考えていききっかけとなったようでした。

高知女子大学看護学会では、急速に変容する社会情勢の中で、社会における看護の価値、そして社会に求められる看護の役割など同窓会の皆様とともに看護学の発展を目指して学会運営を行っていく所存です。



引き続き皆様から、高知女子大学看護学会の発展に向けたご意見、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

ワークショップ



ワークショップ1

社会的課題への看護職の挑戦—ヤングケアラーの支援—

少子高齢化、人口減少、核家族化の進展によって、社会全体の課題として注目されているヤングケアラーの支援の実際について養護教諭、スクールソーシャルワーカーの立場から話題提供いただき、看護職がどのような挑戦ができるかを考えました。また、ヤングケアラーの支援の中でも特に重要となる家族看護の視点から、ケアを担う子どもとその家族の家族レジリエンスを促進する支援の可能性についてご参加の皆様と検討しました。

ワークショップ2

変化する医療現場で専門性を発揮する看護職の挑戦

がんゲノム医療が急速に発展する中、遺伝診療とがんゲノム医療における看護の新たな構築に向け、看護職員への教育や関係職種とのコラボレーション、看護管理者へのアプローチなどに取り組んでいるがん看護専門看護師、そして救急搬送されたものの入院せずに帰宅する患者さんへの帰宅時支援に取り組んでいる救急看護認定看護師から話題提供いただきました。看護だからこそできる医療現場の変革についてご参加の皆様と検討しました。

ワークショップ3

越境する研究者が切り開く新たな看護研究方法の可能性

看護師としての臨床経験を経て、AIを使った研究を行ったことをきっかけに医療情報学を学んでいる研究者と、臨床経験を経て、看護の質を高めるために経済学を学び、新たな視点から看護研究に取り組んでいる研究者から、自身の歩みや研究の取り組みなどについて話題提供いただきました。研究を通して『越境』したお二人だからこそ見える看護研究の限界と可能性についてもお話いただき、看護研究におけるイノベーションについてご参加の皆様と検討しました。

ワークショップ4

ソリューション導入で実現する学習者主体の看護教育

看護専門職者として求められる看護実践能力の育成において活用が進んでいるシミュレーション教育では、効果的に管理するツールの一つとしてソリューション導入が進んでいます。基礎教育における看護実践能力の育成にソリューションをどのように活用しているか、その実際や効果について話題提供いただきました。学生の知識と現象とを統合する思考力の強化と自律的学習の促進に向けた、ソリューションの活用と今後の課題についてご参加の皆様と検討しました。

ワークショップ5

“あったらいいな”から始まる療養生活を支えるケアツール開発

臨床で感じた小さな課題をきっかけに起業し、医療者と患者さんに癒しをもたらす商品開発に取り組み続けている看護師起業家、そして居宅介護事業所の管理者としての経験等から医療的ケア児とその家族の非常時を支えるシステム開発と商品化に取り組んでいる研究者から、その挑戦について話題提供いただきました。臨床実践を通して得たアイデアからケアツール開発につなげる面白さ、開発過程での障壁を乗り越える力について参加者の皆様と検討しました。

ワークショップ6

キャリア形成における自分イノベーション

青年海外協力隊での活動経験を活かし助産師として地域で保健活動をしている卒業生、急性期病院勤務を経て保健師の道へと進んだ卒業生、臨床研究の支援者として活動している修了生、認定看護師から専門看護師を目指している修了生の4名の方から、自身のキャリアを振り返りつつ、現在進行形の自分イノベーションについて話題提供いただきました。小さな挑戦から広がる看護職としてのキャリア開発の可能性についてご参加の皆様と検討しました。

総会

同日、12時15分から対面にて総会が開催され、学会員41名が参加しました。議長には学部26期生、森下安子氏が選出され、議題にそって進行されました。

報告承認事項では、令和4年度事業報告(運営委員会・企画委員会・編集委員会・広報・渉外委員会・所属組織についての活動報告)、令和4年度会計決算報告、監査報告がなされ、いずれも承認されました。

審議事項では、奨学生の選考案、令和5年度事業計画案(企画委員会・編集委員会・広報・渉外委員会事業計画案)、令和5年度予算案、及び奨学金貸与事業活性化のための対策について審議され、承認されました。また、運営委員の改正案について審議され、新たに7名の新委員を含む運営委員が承認されました。

看護開発研究会

看護開発研究会は、高知県立大学看護学部同窓会大学院部会の活動として、2015年度より毎年、高知女子大学看護学会の翌日に開催しています。本年度は4年ぶりに対面での開催として、学会翌日の7月23日(日)に『看護開発研究会2023』を行いました。今回は、【第1部:演題発表】と【第2部:グループ交流・共有】の2部構成といたしました。

【第1部:演題発表】

博士後期課程を修了された3名の方々に『アカデミアでのあゆみ』というテーマで博士論文に取り組む過程での困難や工夫、その後の教育や実践の場における成果の活用、さらなる発展に向けて考えていることなどをご発表いただきました。

田代真理氏(令和元年度修了生)は、量的探索的研究デザインを用いて、がん患者のアドバンスケアプランニング(以下、ACPと記す)という新しい概念を用いた看護支援と影響要因を明らかにするために丁寧に研究プロセスを辿りながら探求されておられました。因子抽出において、がん患者にかかわってきた実践者としての研ぎ澄まされた価値観や研究者のごだわりを大切にしながら、モデルを構築する重要性和時代を先取りする意義も教えていただきました。さらに、得られた結果を社会に還元する誌上発表に加え、当たり前に行われている看護実践にACPの意味づけを行う講義や講演を重ねることで、実践者のケアに根拠とともに、幅広くACPの理解を深めるといった現場に知を伝承し活かす実践を展開されておられました。



川田美和氏(平成28年度修了生)は、因果関係検証型研究デザインを用いて、成人期にある高機能自閉症スペクトラム障害者の親を対象としたエンパワメントプログラムの開発を検証するところまで探求されておられました。既存の研究結果を収集して根拠を見出し、家族の力を促すプログラム開発としてシンプルかつ汎用性のあるものとするための工夫、大事にしたい本質について教えていただきました。プログラム開発を通して、成人期にある高機能自閉症スペクトラム障害者とかかわる家族の疲労感が緩和され、穏やかに過ごすことができるために“対話”をベースとしたアプローチの重要性とは、誰もが生きづらさを感じている社会に不可欠なものであることが証明されるとともに、さらなる研究や教育での活動にも活用されておられました。



瓜生浩子氏(平成25年度修了生)は、質的記述的研究デザイン(GTA)を用いて、脳外傷性高次脳機能障害者と共に生きる家族のFamily Hardinessという現象を探求されていました。高次脳機能障害は“目に見えない障害”であり、“得体の知れない障害”ですが、高次脳機能障害者と共に生きる家族の現実生活や体験世界を語りから紐解くことによって、様々な苦難を人生の挑戦と捉えて家族の強みを生み出していくFamily Hardinessが浮き彫りとなりました。その後も高次脳機能障害の当事者・家族の会とかかわり続ける中で、家族自身にFamily Hardinessに気づいてほしい、社会に当事者・家族の理解者を増やしたいという思いを持ち、仲間とともに「高次脳機能障害当事者・家族の知恵袋」という冊子を作成して、当事者、家族、そして彼らに関わる医療者に結果を還元する活動へと発展されておられました。



【第2部:グループ交流・共有】



第2部では、第1部の発表も踏まえてグループ交流・共有を行いました。7グループに分かれて、お互いの研究活動やアカデミアの道を歩むことに対する考えやアイデアなどを自由に語り、発表しました。コメントーターの野嶋先生より、研究結果の還元について、研究者として果たすべき役割を十分に吟味すること、そのうえで状況と還元できるスコープを意識して発信することの重要性を述べられました。また、看護の本質を説明する概念に光を当てていくことや、看護の中で未だ十分説明されていない概念

を見つけ出していくことについてお話しされました。そして、博士論文を研究者としてさらに発展させて発信し続けること、さらに自分の研究キャリアを、My Research Historyを語れるように覚悟をもって前進すること、質的研究ならびに量的研究のどちらの手法も“できる”ことは“must”であり、研究者の責務であることについて総括いただきました。

さらに、ご参加くださった皆様から、今後もこのような語り合う時間を共有する機会の継続についてもご意見いただきました。

約3時間という限りのある中で、博士後期課程修了生・在学生、博士前期課程修了生・在学生、教員の49名の参加者とともに、とても有意義な時間を過ごすことができました。

次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。



ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。
誠にありがとうございました。
(敬称略 令和5年9月21日現在)

佐竹久子様(4期生)
佐藤美穂子様(18期生)
田中陽子様(修士23期生)
他2名の方

看護相談室

看護相談室は、12の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。

看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々と学びを共有する場として看護相談室を開催しています。
今年度の予定が決定しています。
ぜひ、ご参加ください。
高知県立大学のホームページにも詳細が記載されていますので、ご覧下さい。



家族看護学	* 長戸研究室 ☎ 088-847-8708 I. ケア検討会 未定 II. リカレント教育 (18:30~20:30) 5/19、6/16、7/14、8/18、10/20、11/17、12/15、1/19、2/16
精神看護学	* 田井研究室 ☎ 088-847-8723 I. ケア検討会 6/22(木)、9/21(木)、12/21(木) 19:00-21:00 II. リカレント教育 (未定)
がん看護学	* 藤田研究室 ☎ 088-847-8704 I. ケア検討会 10/7(土)、2/10(土) 13時~15時 ※日程が変更になる場合がございます II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
クリティカルケア看護学	* 大川研究室 ☎ 088-847-8703 I. ケア検討会 6/13(火)、2/13(火) 18:30~20:00 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
慢性看護学	* 内田研究室 ☎ 088-847-8720 I. ケア検討会 7/14(金)、12/15(金) 18:00-19:30
小児看護学	* 中野研究室 ☎ 088-847-8710 I. ケア検討会 (大学院特別講義) 9月、11月、2月*開催時期等に変更の可能性あります II. 交流会 (7/23午後予定) IV. その他 赤ちゃん同窓会10月頃
母性・助産看護学	* 渡邊研究室 ☎ 088-847-8719 I. ケア検討会 12/15 (金) 18:30~20:00 II. 交流会 6/2 (金) 18:30~20:00 III. リカレント教育 未定
地域看護学	* 小澤研究室 ☎ 088-847-8722 I. ケア検討会 6/9 (金) 6/16 (金) 7/28 (金) 8/1 (火) II. リカレント教育 5/12 (金) 11/2 (木) 12/15 (金) 12/19 (火) 2/9 (金) 3月中旬
在宅看護学	* 川上研究室 ☎ 088-847-8718 I. ケア検討会 6/22(木)、10/19(木)、2/22(木) 18:30~20:30 II. 交流会 8/18 (金) 18:30~20:30
老人看護学	* 竹崎研究室 ☎ 088-847-8705 I. ケア検討会 6/13 (火)、11/14 (火) II. 交流会&III. リカレント教育 未定
看護管理学	* 久保田研究室 ☎ 088-847-8714 I. ケア検討会 6/9 (金)、10/13 (金) 18:30~21:00 II. 交流会&III. リカレント教育 未定
災害・国際看護学	* 木下研究室 ☎ 088-847-8762 I. ケア検討会 未定 II. 交流会&III. リカレント教育 未定

寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



編集後記

今年の夏は、猛暑や豪雨、台風で日本各地に甚大な被害をもたらしました。同窓生の皆様がお住まいの地域に被害はなかったでしょうか。
本号では、学長を退官された野嶋先生へのメッセージ、コロナ禍でようやく対面で開催された高知女子大学看護学会の報告や看護学部の活動についてお届けしました。ぜひ、同窓会を開催した等の情報、会報の感想などお寄せください。

池添・川本・西内

表紙の写真：高知市内の鷲尾山から
みた太平洋の様子

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部
Fax: 088-847-8750

ホームページアドレス

高知県立大学
<http://www.u-kochi.ac.jp/>

高知県立大学看護学部
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

